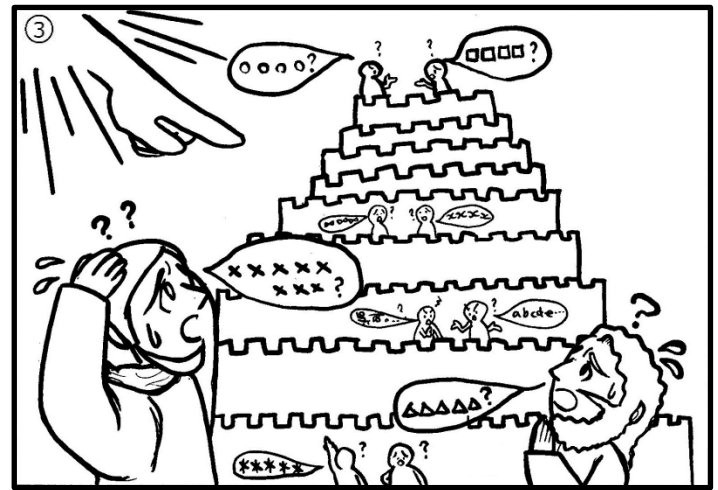
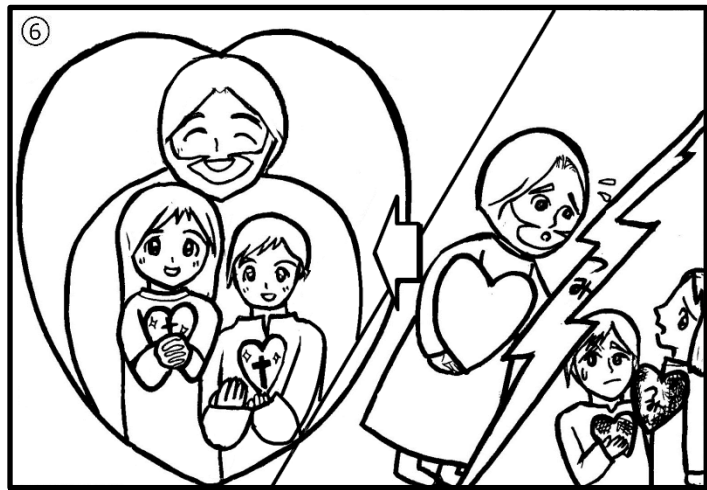
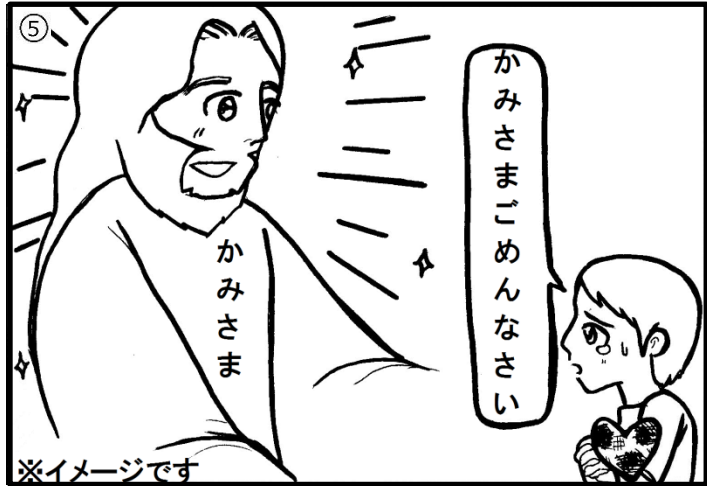
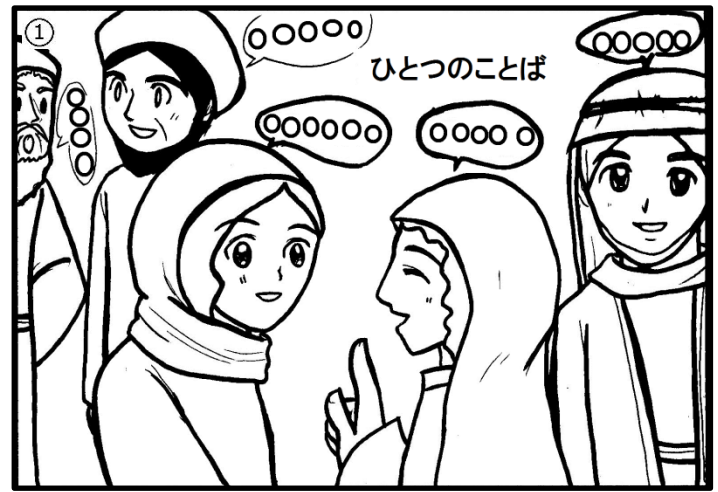


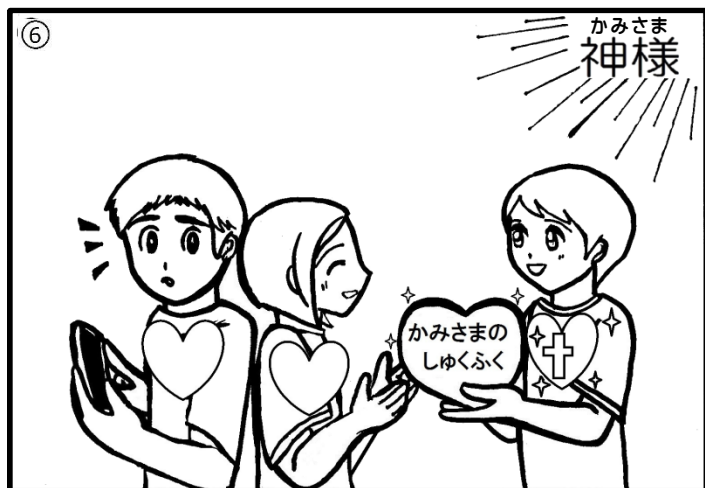
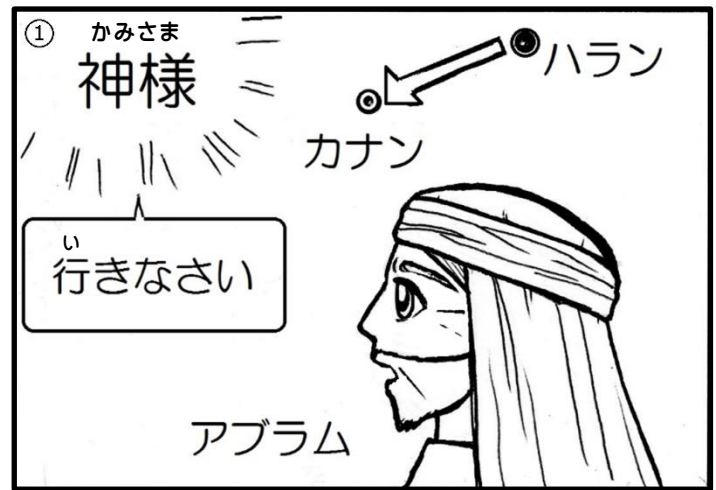
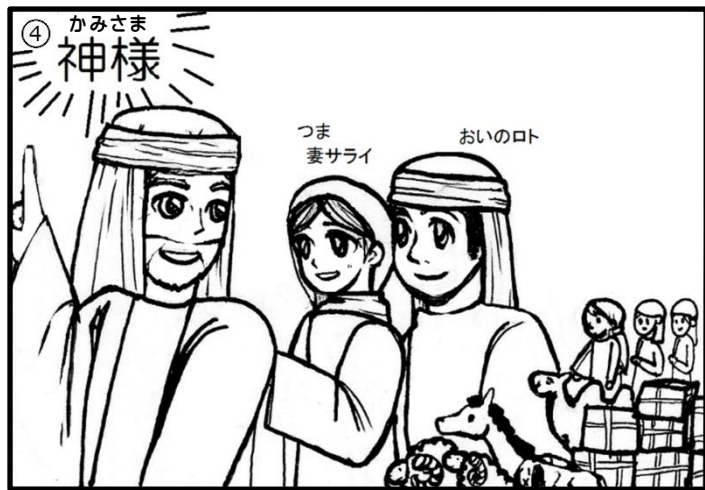
#### 7月5日 みんなで入ろう、救いの箱舟 創世記7・1～24

1. 神様は、とてもつらい気持ちで、人間を造ったことを後悔しました。そしてこの地上から人を滅ぼしてしまおうと決心しました。けれども、神様はノアに心を留めました。
2. 神様はノアに、ノアと家族、動物たちを救うために大きな箱舟を作るように命じました。
3. ノアたち8人と動物たちが箱舟に入ったとき、神様が箱舟の戸を閉めました。それから40日。雨が降り続き、雨は山の上をこえるまでに増えました。箱舟に入ったもの、水の中で生きられるものだけが残りました。
4. ノアも動物たちも、すべて神様の命じられたとおりにしました。洪水が起こることも、箱舟に入って助かることも、全部神様の思いでした。ノアを洪水から救ってくださったのは神様です。
5. 神様は人が心に思うことはよくないけれど、洪水で世界を滅ぼすことはやめよう、との決心を守り、二度と私たちを滅ぼさないですむように、イエス様を十字架にかけてくださったのです。
6. イエス様を信じ、十字架の救いを信じて生きるなら、だれでも救いの箱舟に入ることができるのです。家族やお友達がみんなイエス様を信じるように、お祈りしましょう。



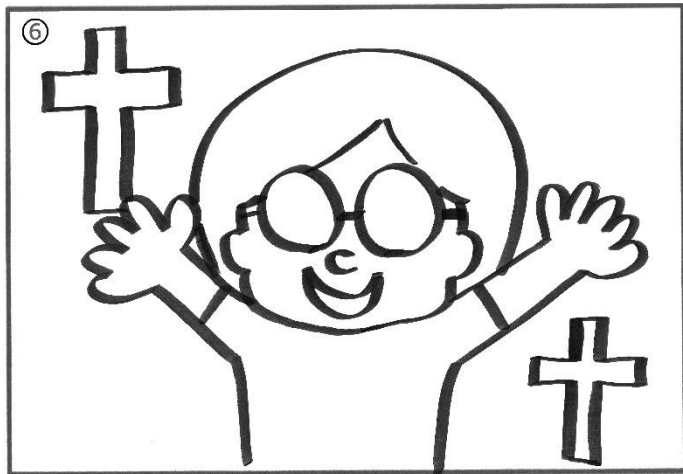
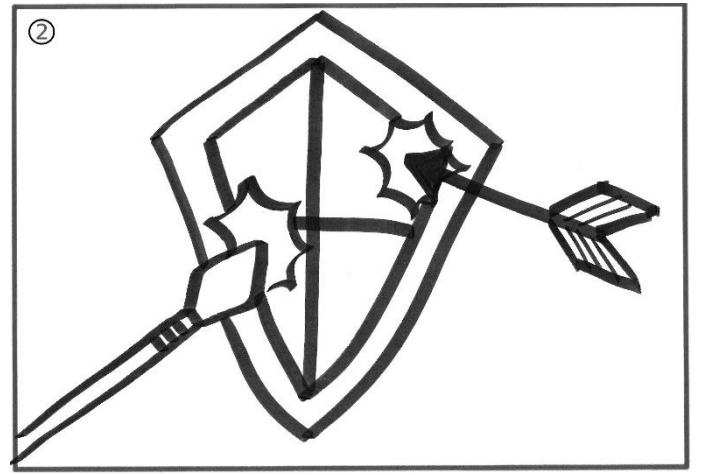
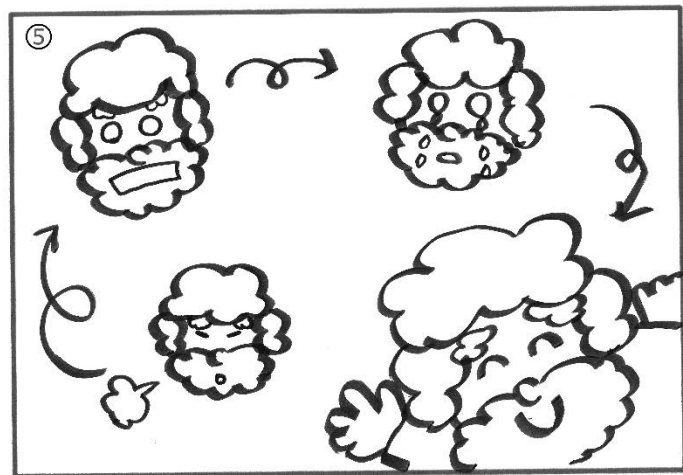
# 7月12日 バベルの塔 創世記11・1～9

1. ノアが箱舟から出て、世界に人々が増え広がったところ、世界は一つの言葉でした。
2. 人々はれんがで大きな建物や高い塔を作りました。人々の心の根っこには、自分たちを神様にし、自分たちが一番だと思う高ぶりがありました。
3. 神様は人々をそのままにはしませんでした。神様は、人々の言葉が通じないようにしました。
4. もうお互いに話すことができません。ついに工事ができなくなってしまいました。人々は言葉がわかる人どうしで集まり、世界中に散らばって住むしかなくなりました。このできごとが起こった町の名前がバベルです。
5. 神様は人間がこんなにひどいことをしても、滅ぼすことはしませんでした。悔い改めて神様に従う人になるように願っておられるのです。
6. わたしたちは、なかなか人の気持ち、神様の気持ちがわかりません。罪はわたしたちを神様からも人からも遠ざけるのです。どうしても私たちは自分を一番にしようとし、自分を神様にしようします。でも、聖霊の助けをいただき、へりくだって神様をいちばんにできるように、お互いに愛し合えるようにお祈りしましょう。



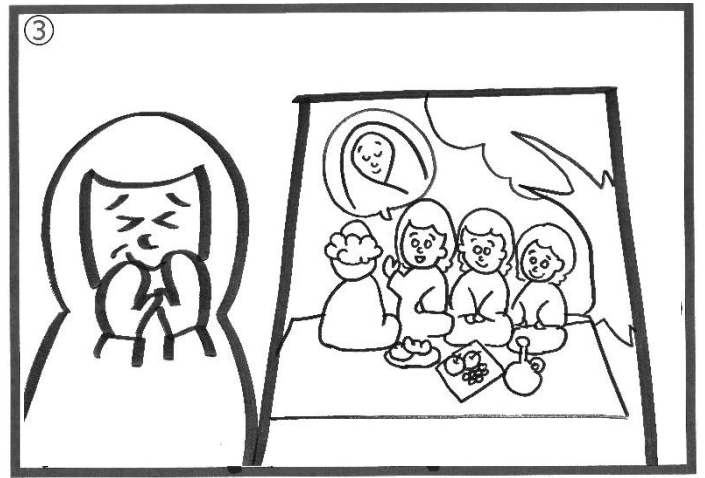
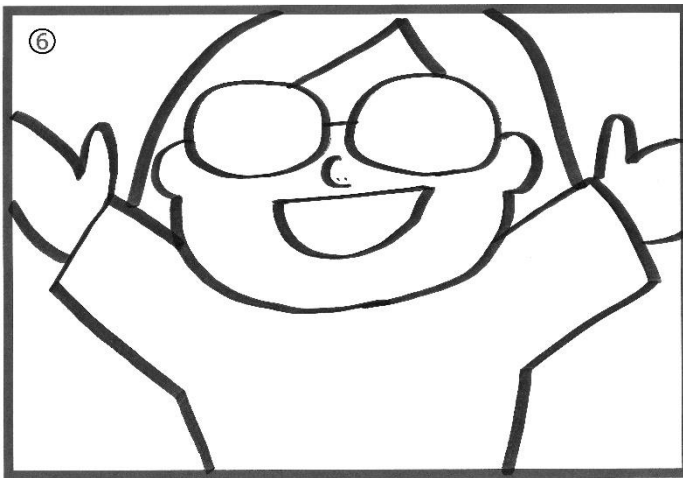
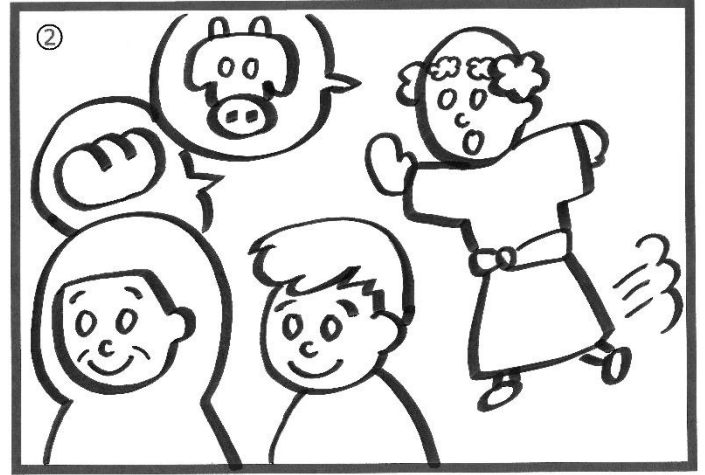
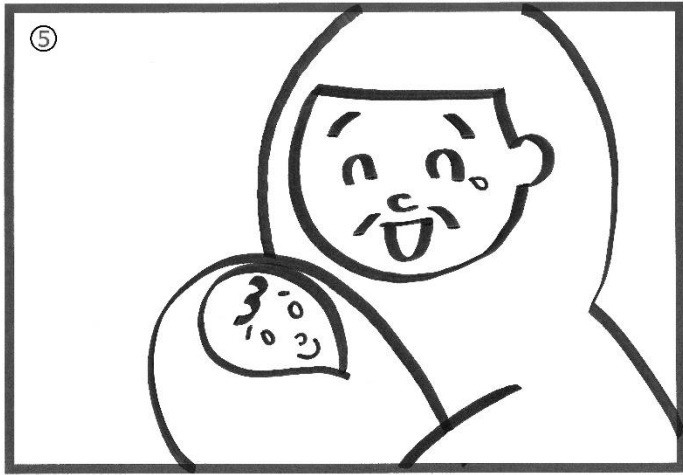
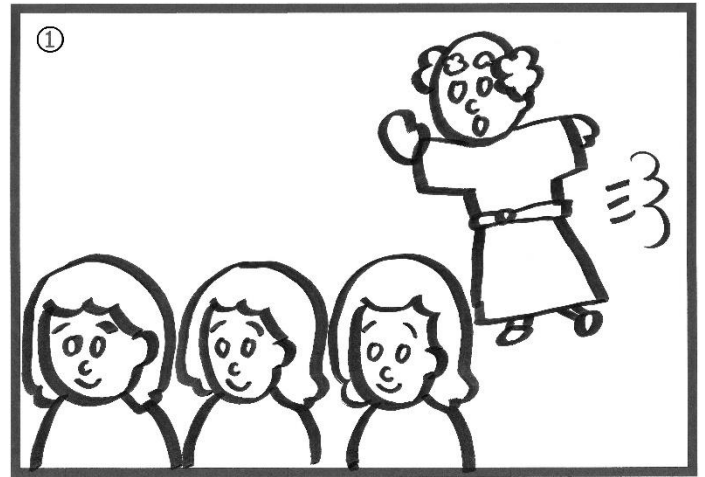
#### 7月19日 さあ、出発だ！ 創世記12・1～9

1. 神様はアブラムに言いました。「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。…あなたは祝福の基となるであろう。」
2. 神様は、アブラムを選び、アブラムから生まれる子孫を増やし、一つの国にすることに決めたのです。そしてアブラムとその子孫の国を通して、世界の国の人々を祝福する、というのです。
3. アブラムは75才。アブラムの家族も召使いも、家畜もみんな行くので、新しい土地に行って新しい生活をするのも、引っ越しもとても大変。カナンの土地には、もともとそこに住んでいる人がいます。
4. アブラムは、神様が言われたように、出発しました。妻のサライ、おいのロト、すべての財産、家畜、召使いたち。すべて持って、住み慣れたハランを出発。アブラムの心には、ただ神様を信じる気持ちがありました。
5. アブラムは「アブラハム」と名前が変えられ、「信仰の父」とまで、呼ばれるようになるのです。
6. 神様は私たちを通して、神様の祝福をまわりの人に分けたいと願っておられるのです。そしてそれができるようにわたしたちを成長させてくださるのです。



# 7月26日 神の約束を信じて 創世記15・1～16

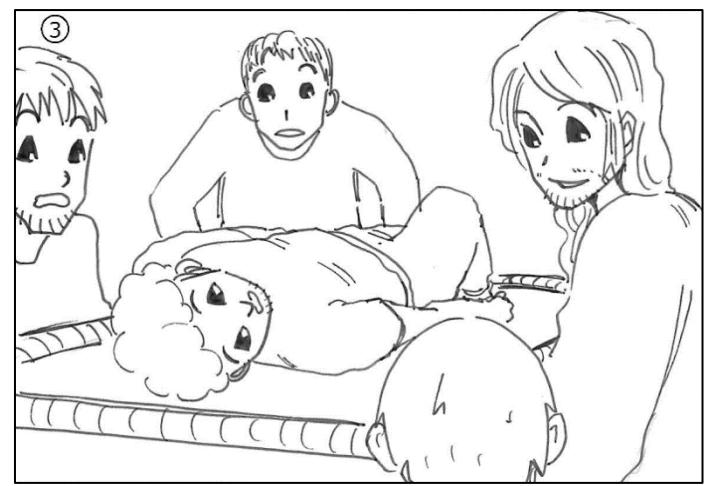
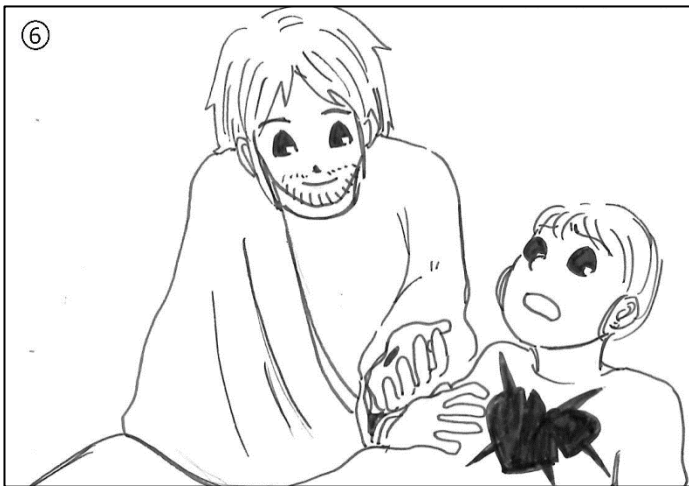
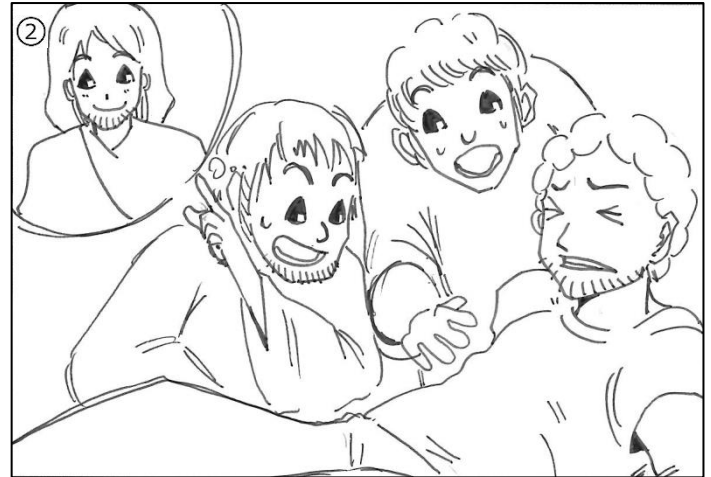
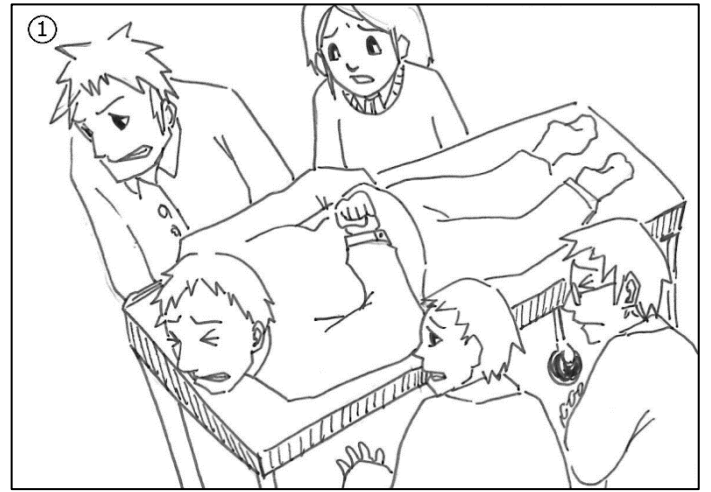
1. アブラムは主の約束にも関わらず子どもが与えられないまま高齢になり、不安でいっぱいになる。
2. そんなアブラムに、主は「恐れてはならない、わたしはあなたの盾である」とお語りになる。
3. 主はアブラムを外に連れ出し空の星を見上げさせる。「あなたの子孫はあのようなになるでしょう。」
4. 「アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。」
5. アブラムは恐れたり、迷ったり、文句のようなことを言いながら、信じる人に変えられていった。
6. わたしたちを「イエス様の十字架はわたしのためです」と信じる人に変えるのも主である。



## 8月2日 イサクの誕生 創世記18・1～15、21・1～8

1. 昼の暑いころ、アブラハムは3人の人を呼び止め、自分の家に招く。
2. 急いでサラにパンを作ってもらい、若者に子牛を料理してもらおう。
3. 来年の今頃サラは男の子を生むとの言葉に、信じられず笑うサラ。
4. ところが、約1年後本当にサラは男の子を生む。
5. 神のことばの通りになったので、サラは神を賛美し、喜びでいっぱいになる。
6. 毎日いろいろなことがあるが、約束の実現を楽しみにしながら祈りつつ進もう。

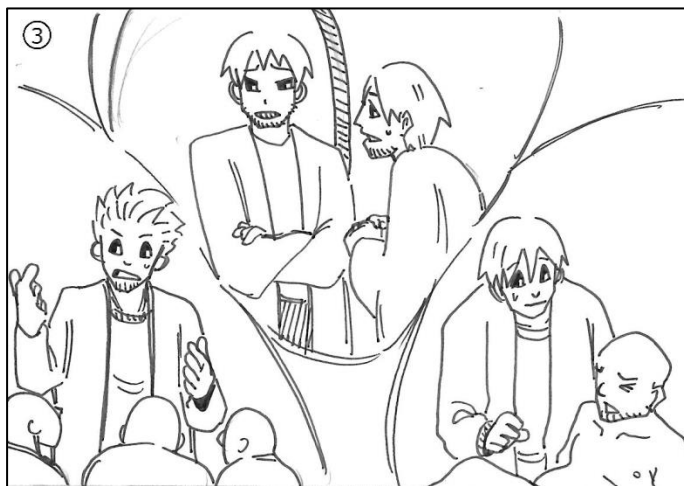
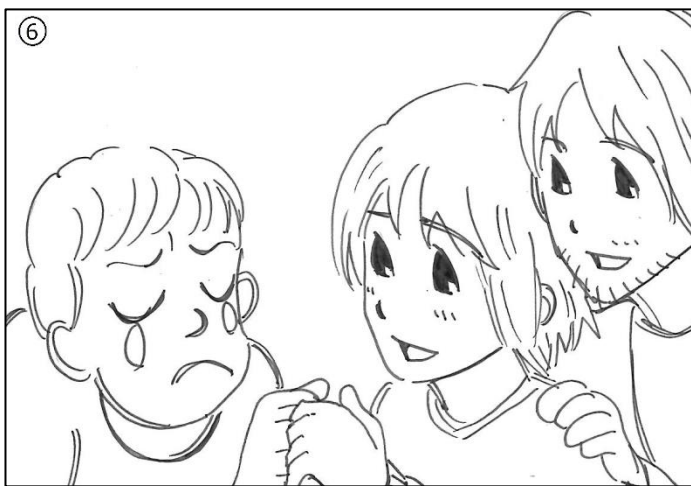
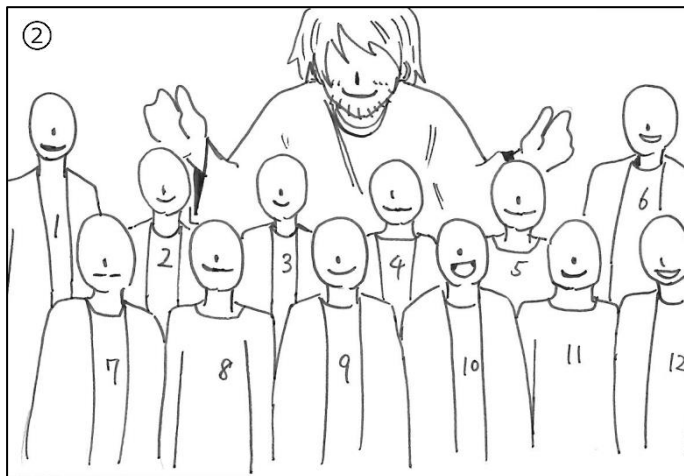
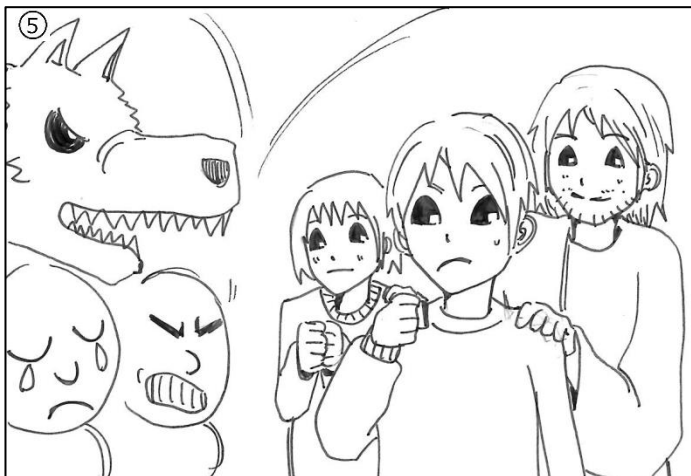
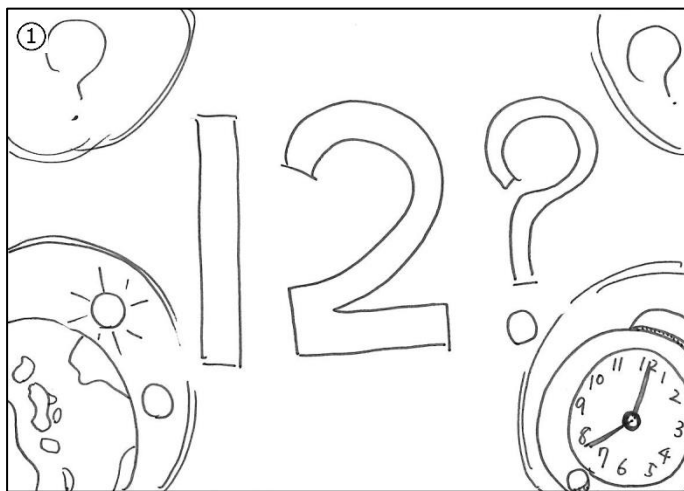
※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。



# 8月9日 罪の赦しの恵み マタイ9・1～8

1. 私が関西聖書神学校にいた時、同級生の一人が急にひどいギックリ腰になってしまいました。
2. この人は「中風」と言って、体が麻痺してしまう病気にかかっていました。人によって、言葉がしゃべれなくなったり、手や足が動かなくなったりします。
3. さてイエス様は、イエス様のもとに癒しを求めてきた彼らの信仰を見て、中風の人に「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪は赦されたのだ」と言われました。
4. するとそれを聞いていた律法学者たちが心の中で言いました、「この人は神を汚している」と。
5. その心の声が聞こえたイエス様はこう言われました「あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか」。
6. 体の病気も人を苦しめますが、最も人を苦しめ、永遠の死に至らせる恐ろしい病気は「罪」という魂の病気です。

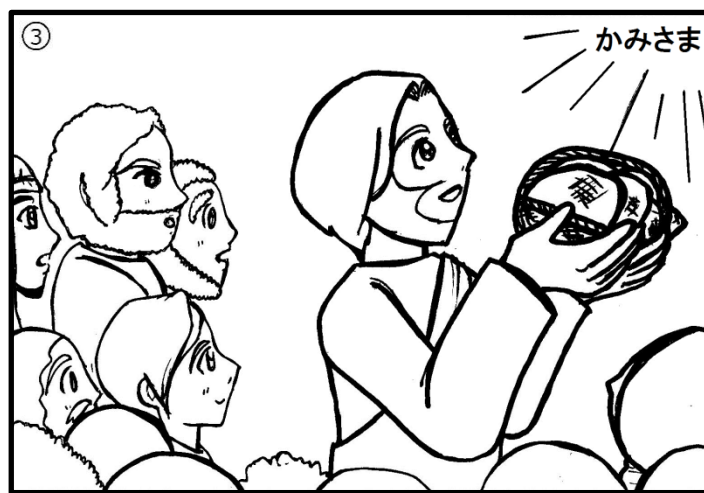
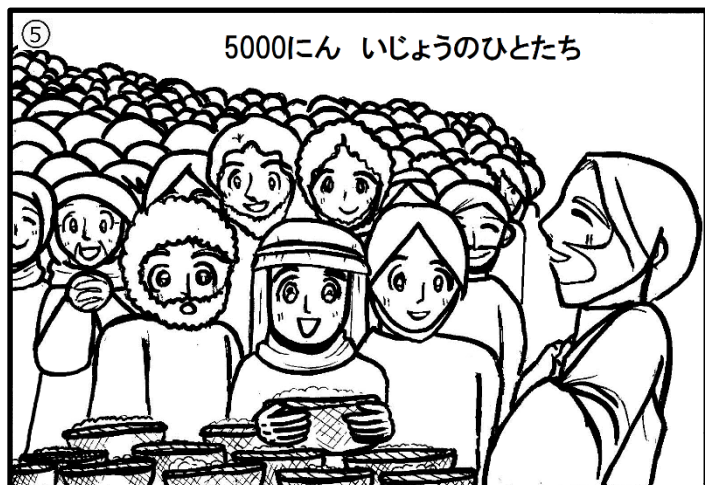
※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。



## 8月16日 弟子たちの派遣 マタイ 10・1～16

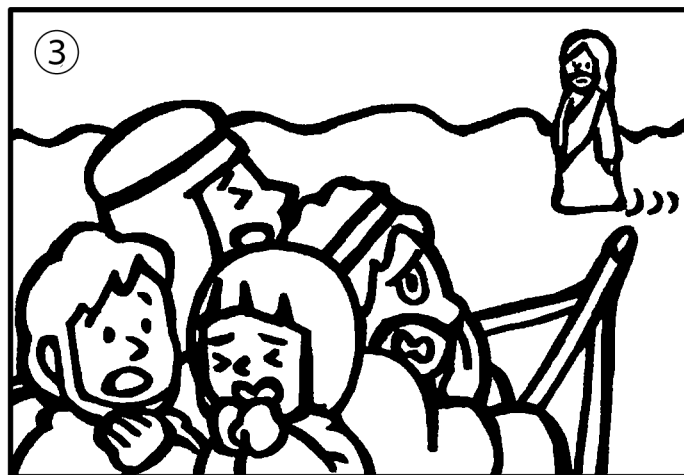
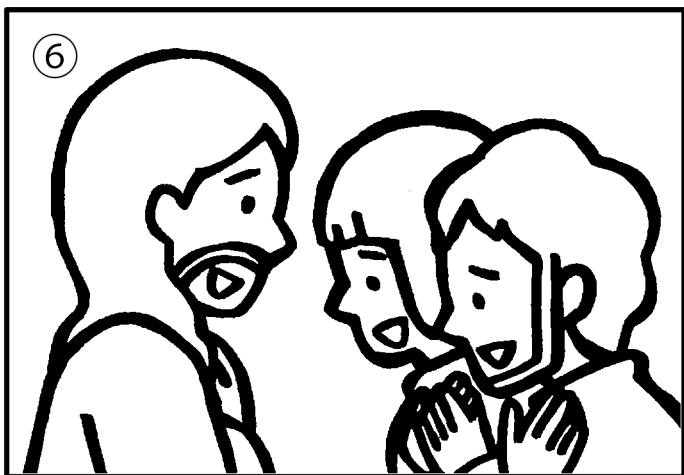
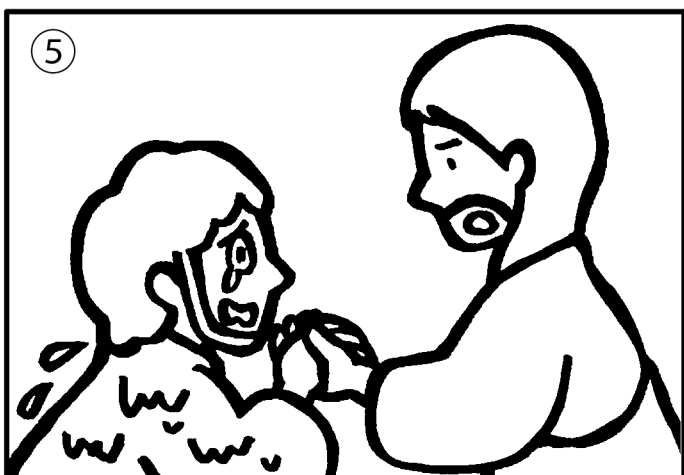
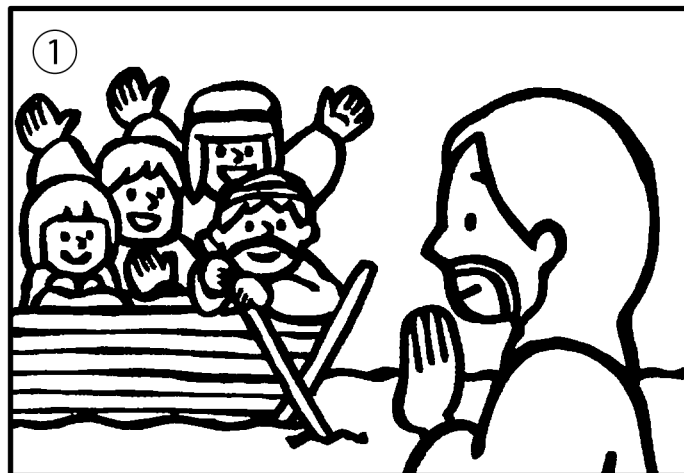
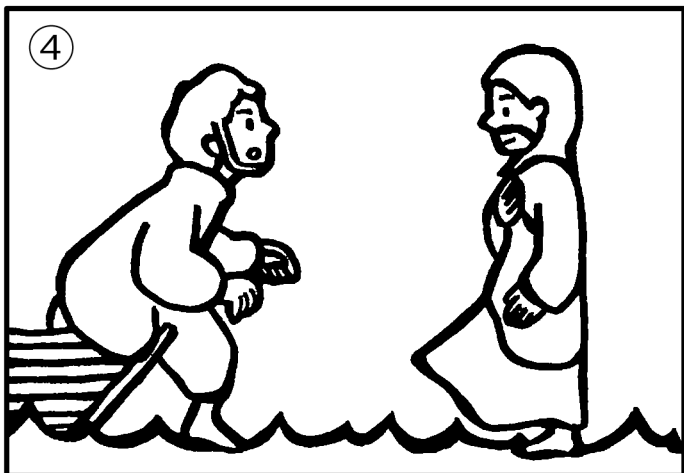
1. 今日、聖書に出てくる数字は「12」です。「12」と言えば何を思い出しますか？ そう、時計の針は 12 時間で一周しますね。それと一年も 12 か月。つまり地球が太陽の周りを一周するのに 12 か月かかります。
2. イエス様は 12 人の弟子を選ばれました。（他にも弟子がたくさんいましたが、野球選手のように弟子にも一軍と二軍がいるのです）
3. 弟子たちは、まだまだ一級ではありません。まだ十級ぐらいかも知れません。それでもイエス様は 12 弟子を町の人々の所に遣わされました。
4. でも考えてみると、とても勇気が要りますね。出かけて行って、初めて会う人たちに、イエス様の事やイエス様から聞いた言葉を伝えたりするのです。
5. イエス様の弟子は、この時の 12 弟子だけではありませんよ。イエス様の言葉を聞いて、イエス様に従おうとするなら、キミもイエス様の弟子になれるのです！
6. 12 弟子だって最初から立派なお弟子だった訳ではありません。

※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を 200%拡大し、更に 141%拡大する。A3サイズは 200%拡大し、更に 200%拡大。



# 8月23日 5つのパンと2匹の魚 マタイ14・13～21

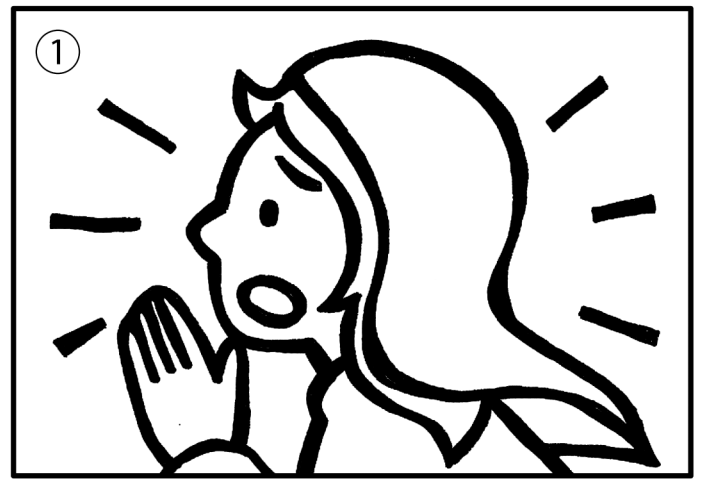
1. 夕方になって、弟子たちが食事の心配をし始めたのです。ここには全員の分の食べ物はありません。でもイエス様は敢えて弟子たちに言われました。「あなたがたの手で」あの人たちに何か食べるものをあげなさい。
2. 弟子たちの答えは、「わたしたちはここに、パン5つと魚2ひきしか持っていません」というものでした。
3. イエス様は①「5つのパンと2ひきの魚とを手に取り、」②「天を仰いで」③「それを祝福し、」
4. ④「パンをさいて」⑤「弟子たちに渡された」のです。
5. その場にいた5千人以上の人たちが食べて満腹したのです。しかも、パンくずの残りを集めると、12のかごいっぱいになりました。イエス様は何でもできるのです。
6. イエス様は私たち人間の手なんか借りなくても、すべてのことができます。でもその働きを「あえて」、皆さんの手に渡されるのです。イエス様が、みんなに活躍してほしいと思っておられるからです。神様はこの世界を、素晴らしいものにしたいと願っておられます。イエス様が一緒ならみんなにはどんなこともできるのです。そのことを信じて、神様に自分をささげて歩んで行きましょう。



8月30日 水の上を歩くイエス様 マタイ14・22～33

1. イエス様は弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸に行くように命じられました。
2. ひとり祈るため山に登っていかれたイエス様は、夕方になってもまだ祈っておられました。
3. 明け方、イエス様は海の上を歩いて弟子たちの所に行かれました。弟子たちは驚き騒ぎ出しました。
4. ペテロは舟から下り、水の上を歩いてイエス様の所に行きました。
5. 激しく吹く風に気を取られ、イエス様から目を離したとたん、あっという間に海に沈み溺れそうになりました。
6. 弟子たちは、「ほんとうに、あなたは神の子です」と告白しました。

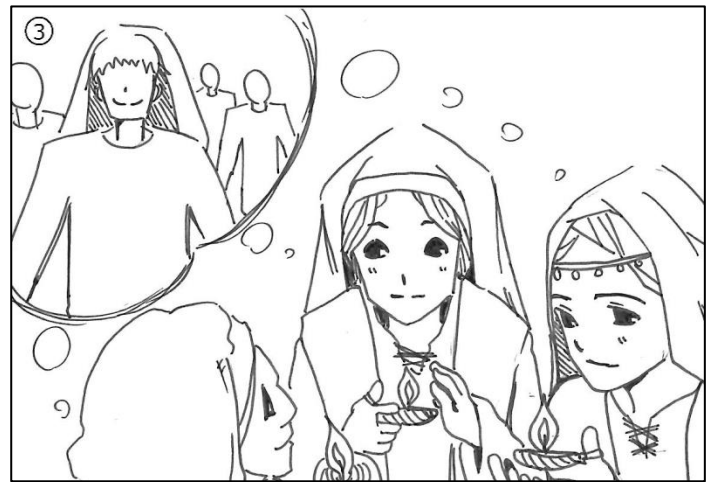
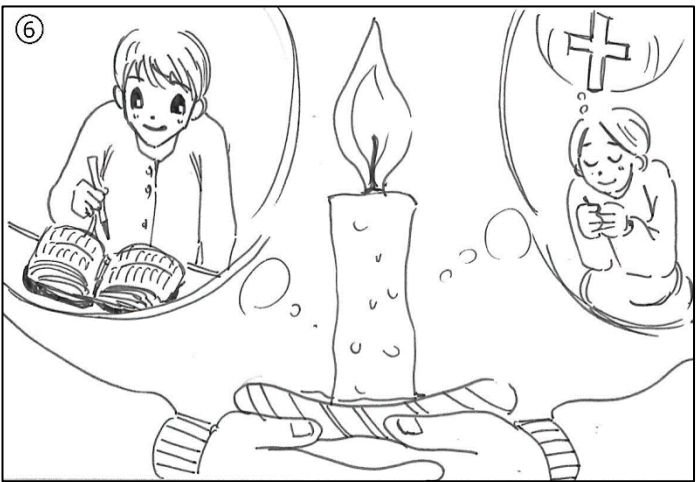
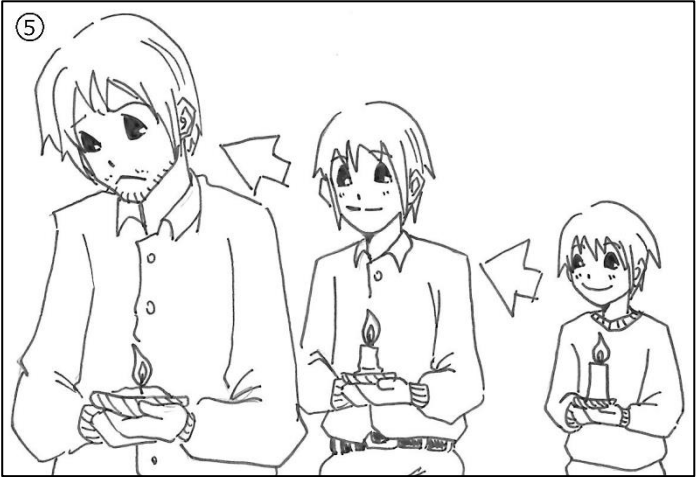
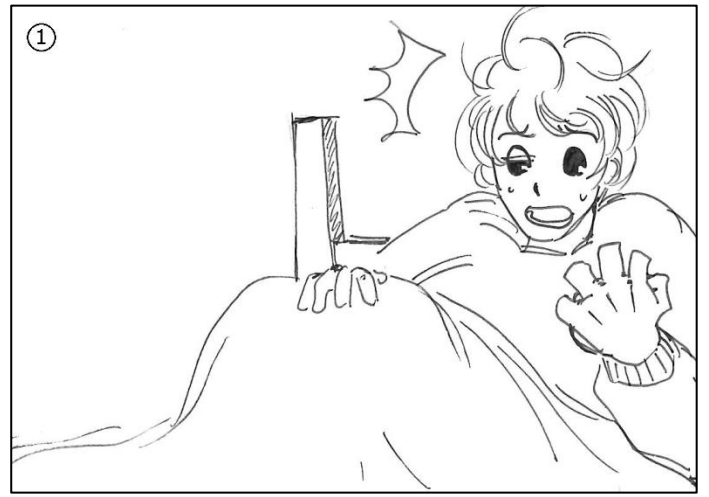
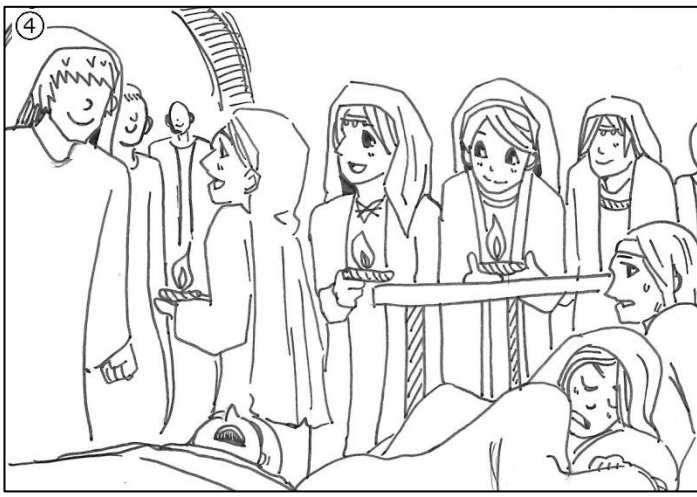
※各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大



9月6日 イエス様にほめられた婦人 マタイ15・21～28

1. カナン人の女の人がイエス様の姿を見て叫びながら近づいてきました。
2. イエス様はなんにもおっしゃらずに黙って歩いて行かれますが、あきらめずに叫び続けます。
3. イエス様は「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない。」とおっしゃいましたが女の方はあきらめません。
4. 女の方はなおもイエス様に近寄り、叫び続けました。
5. 女の方は「子どもたちのパンを取って子犬に投げてやるのは、よろしくない」とイエス様に言われてもひるまずに「子犬でも、食卓から落ちるパンくずはいただきます。」と言いました。
6. イエス様は女の方の信仰をたいそう褒め、願いどおりに娘の病気を癒して下さいました。

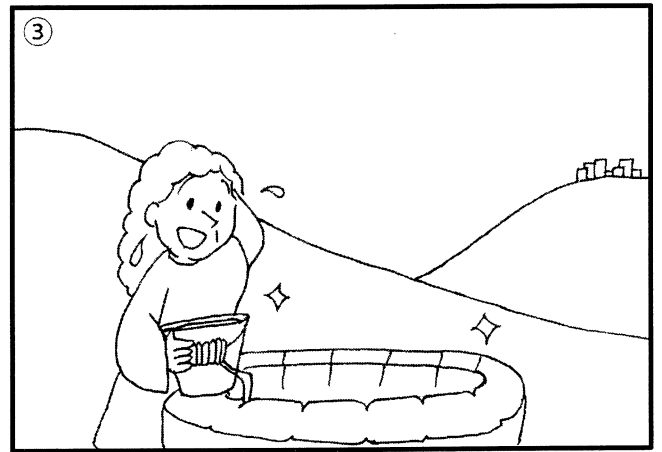
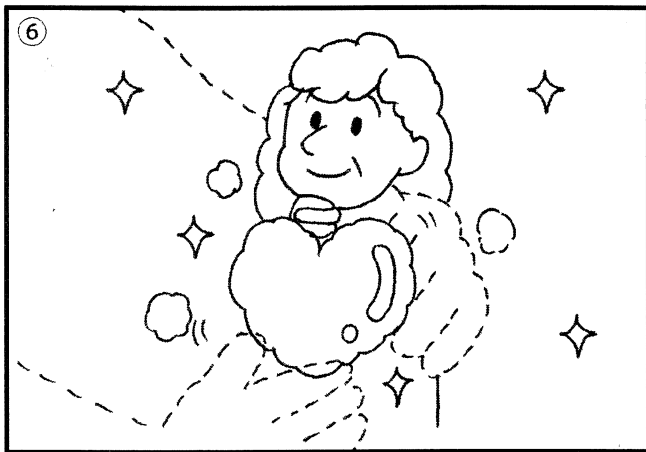
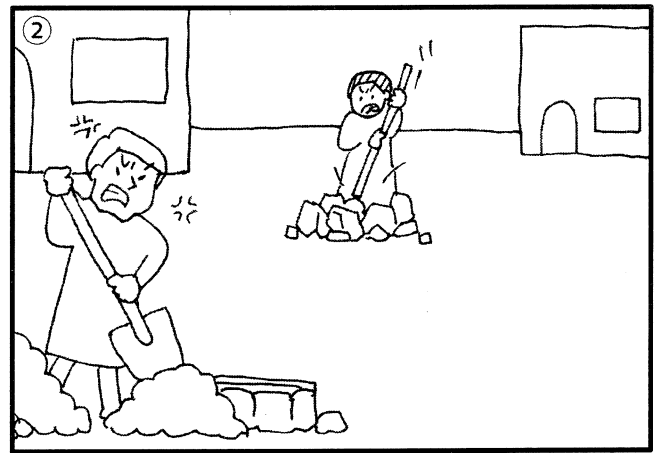
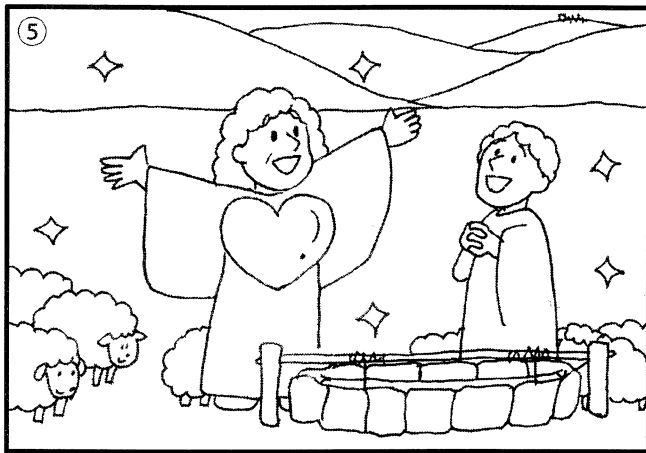
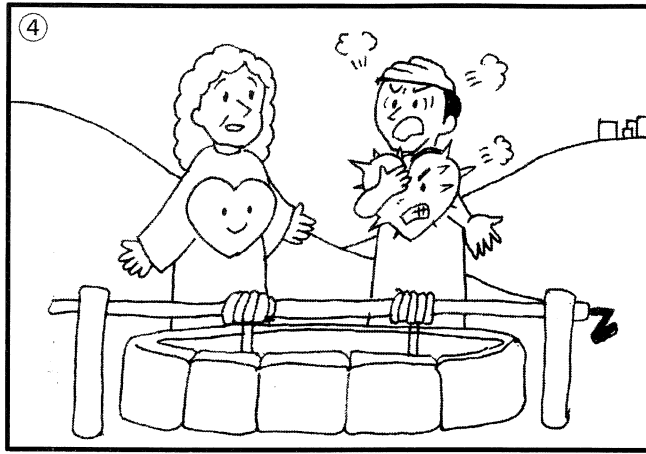
※各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141n%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大



### 9月13日 主の再臨に備える マタイ 25・1～13

1. なんてったって夏休みの間は、朝寝坊して何時に起きてもよかったからです。でも学校が始まったら、朝早く起きないと遅刻してしまいます！
2. イエス様がこの世の最後の時期に、再び天から地上に来られる事を「再臨」と言います。
3. 当時のイスラエルでは結婚式のパーティーをする際、花嫁さんとお友達が、花嫁さんの家に、花嫁さんとお友達を迎えに行きました。普通は夕方頃に迎えに行くのですが、遅くなる事もあったようです。ですから女性たちはランプを持っていないといけません。
4. さて、この時は花嫁さん達が迎えに来るのがとても遅くなって、なんと夜中になってしまいました。花嫁さんのお友達は待ち疲れて眠っていました。
5. そしてランプの灯火は、イエス様を信じる心「信仰」の事です。では、油は何でしょう？それは「イエス様を信じ続ける心」です。いつも信じている、そしていつまでも信じている心です！
6. そうならないためには、ずーっとイエス様を信じ続ける心を持つ事です！私たちはいつも息をし続けています。

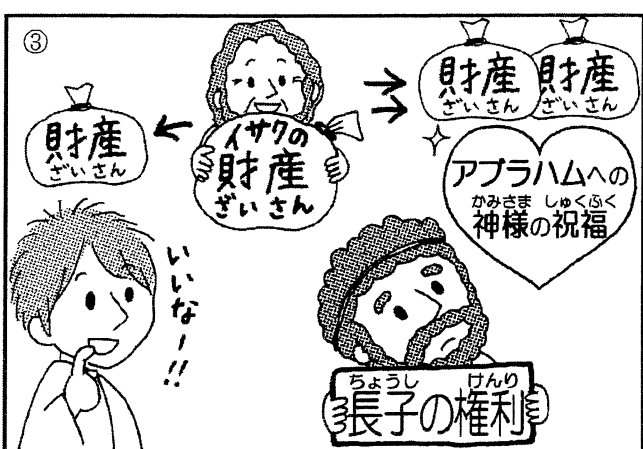
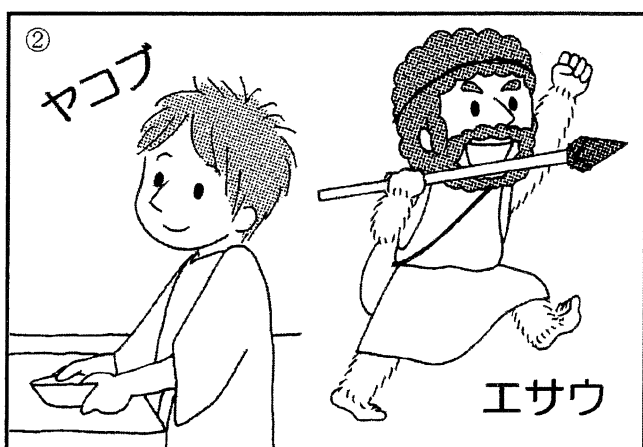
※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。



## 9月20日 柔和な心で歩もう 創世記 26・12～22

1. 祝福に満ちていたイサク。ペリシテびとから、ねたまれている。
2. ペリシテびとが井戸をふさいでいる。
3. ゲラルの谷で井戸を掘ったイサク。
4. ゲラルの羊飼いが怒っている。
5. イサクは、生活と一緒に心も祝福された。神様に感謝をしているイサク。
6. 柔和な心を与えてくださる神様。

※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。



## 9月27日 祝福をください！ 創世記25・19～34

1. 子どもが与えられるように祈る、イサクとリベカ。すると二人の間に、子どもが与えられた。
2. エサウは毛深く、狩りが上手だった。ヤコブは肌がきれいで、おとなしく、よく天幕にいた。
3. エサウは、父の財産を他の兄弟よりも二倍受けられ、そして、アブラハムへの神様の祝福を受けられる長子の権利を持っていた。その権利に、あまり関心がないエサウと関心があるヤコブ。
4. エサウは、「そのシチューを食べさせてくれ」とヤコブに頼み、ヤコブは、代わりに長子の権利を求めた。
5. エサウは目先の欲のために、長子の権利を大切にしなかった。ヤコブは、切に、長子の権利、神様の祝福を求めている。
6. ヤコブは、神様からの祝福を受け取っている。エサウは祝福が受けられなくて、あせっている。

※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。